

人 気 モ デ ル
莉 奈 二 十 三 歳

第六卷

衝撃のコスプレヌード写真集

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 トップモデルの憂鬱

■ 海老沢薫 BLOG

■ 海老沢薫 Web 連載小説

※ 海老沢薫 BLOG

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について
 「人気モデル 莉奈二十三歳 第六巻 衝撃
 の コスプレヌード 写真集」(以下本書と表記
 する)の著作権は「海老沢薫」にあります。
 ・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
 及び国際条約によつて保護されています。
 ・ 「海老沢薫」が事前に書面をもつて許可し
 た場合を除き、本書の一部、または全部を、
 あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファ
 イル、ビデオ、テープレコーダー)により複
 製、流用、転載、転売することを固く禁じま
 す。
 ・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
 61条などの罰則がありますので、ご注意くださ
 い。

■ まえがき

数年ぶりに凱旋した母校において、恩師や後輩達が見ている前で一糸纏わぬ姿を晒した挙句、絶頂まで果たし、屈辱の限りを味わい尽くした人気モデルの緒方莉奈。

そんな母校での悪夢が覚めやらぬ中、莉奈はファッション誌の下着撮影のために、マネージャーの山下が運転する車で現場へと向かった。

莉奈は何となく厭な予感を覚えながらも、山下に連れられてオフィス街の一角へとやって来ると、そこでスタッフから撮影用のブラとパンティを渡され、あろうことか通りでそれに着替えるよう指示される。

しかも、渡された下着はなんとシースルーのブラとパンティで、所々に刺繍が施されているものの、ほとんどスケスケの代物であつたのだ。

動揺を隠せない莉奈に対し、女性スタッフは早く着替えるよう命じ、莉奈は仕方なくオ

フェイス街の通りでストリップショーを演じる
ことになった。
そうして、淡いピンク色のシースルのブ
ラとパンティに着替えた莉奈は、その恰好で
街角に立ち、カメラの前でポーズを作った。
「莉奈ちゃん、ちょっと乳首勃起ってない？ 悪
いけど普通にしてくれるかなあ」
カメラマンの男は、スケスケのブラから覗く
莉奈の乳首が硬く尖っている事に気づくと、
莉奈の羞恥心をわざと煽るように意地悪な要
求をした。
「ああん、ご、ごめんなさい・・・」
莉奈は顔を真っ赤に染めて謝ったが、興奮し
ているせいか尖った乳首を簡単に元に戻す事
などできなかつた。
やがて、莉奈が羞恥に悶えながら必死に撮
影に臨んでいると、オフィス街を行き交うサ
ラリーマンやOLにその姿を見つかり、いつ
しか莉奈の周囲には大勢のギャラリイが集ま
り始めていた。

「ヤベェ、アレって人気モデルの緒方莉奈だよな、どうしてこんな所であんなオツパイもオケケも丸見えの恰好してるんだ」
「えっ、あそこにいるの緒方莉奈だよ！ほんとんど裸みたいな恰好して一体何してるのかしら？」
オフィス街の一角は騒然となり、カメラの前で必死にポーズを作る莉奈の秘部からは、止めどなく厭らしい汁が溢れ出し始めていたのだった。

■ 第一章 トップモデルの憂鬱

莉奈は布団の中で悪夢にうなされていた。体中が燃え上がるように熱くなり、どうしようもない羞恥に全身が疼くのを感じていた。お願い見ないで……。夢の中で莉奈は何度もそう叫び、ベッドの上で体を振らせた。人気モデルとして活躍する緒方莉奈は、昨日母校の中学へと凱旋し、そこで恩師や後輩達と出会い、楽しい思い出に浸るはずであつた。しかし、そこに待ち受けていたのはまさかの悪夢のような羞恥ショーだったのだ。自らの弱みを握る者に脅迫され、破廉恥極まりない衣装で母校へと凱旋することになつた莉奈は、久しぶりに再会した恩師達に蔑まれ、挙句に後輩達の前で行った特別授業では全裸になり、彼女達に秘部を弄られ絶頂する姿まで晒してしまったのだ。

その後、校庭の鉄棒に全裸逆立ち姿で緊縛され放置されてしまった莉奈は、昼休みになり校庭に出てきた大勢の生徒達にその体の隅々までを視姦され、さらに豊かな乳房や形良いお尻を弄られ、恥毛を引き抜かれ、秘部に何本もの指を挿入された。莉奈が後輩達の手で何度か絶頂を果たすと、遠くからずっと鑑賞していたマネージャーの山下が、ようやくく莉奈を解放し、全裸放心状態のまま母校を後にしたのだった。

母校で起きた悪夢のような忌まわしい出来事の数々に莉奈が受けたショックは計り知れず、それからずっと莉奈は塞ぎ込みながらも体はなぜか疼いてしまっていた。

部屋の中をカーテンの隙間から漏れた光が優しく照らし出していた。莉奈は布団の中にくるまったまま、ボツとその光の方を見つめていた。すると、静寂を打ち破るようにスマホの着信音が鳴り響いた。その相手はマネ

「ジャーの山下だと莉奈はすぐに直感し、胸の奥から憂鬱な感情が一気に噴き上がった。」
「はい・・・」
何度目かの着信音で莉奈が電話に出ると、案の定山下の甲高い声が響いてきた。
「莉奈ちゃん、これから迎えに行くから支度しておきなさい」
山下は事務的な口調でそう告げると一方的に電話を切った。
今日はこれからファッション誌の撮影のスケジュールが入っていたのを莉奈は思い出し、人気モデルとしての責任感からか、ベッドから起き上がると仕事に出かける準備を始めた。マネージャーの山下もまた自分の恥ずかしい弱みを握る一人で、決して逆らう事のできない相手であつた。自分の一番近くにそんな人間がいるという現実は、莉奈をどうしようもなく不安にさせ、仕事をしている時も常に恐怖が付きまとつた。もしかしたら、今日の仕事でも何かされるかも知れない・・・。莉

奈はそんな不安に駆られながら支度を済ませ、山下がやって来るのを待った。暫くして、ピーンと玄関のチャイムが鳴り響き、山下が迎えにやって来ると、莉奈はまるで得体の知れない戦場へと向かうように気分が家で後にした。うな莉奈ちゃん、今日は下着の撮影だからよろしくね」

マネージャーの山下は車を運転しながら、後部座席に座る莉奈に呼び掛けた。バックミラー越しに映る莉奈の表情が一瞬強張ったのを見た山下はニタツと邪な笑みを浮かべ、今日これから起こる莉奈の新たな羞恥劇に思いを馳せ、胸を躍らせた。

「はい、分かりました・・・」

消え入りそうに答える莉奈の声は震えており、明らかに怯えているのが伝わった。

出演した際に行った事はあるが、今日の撮影は莉奈には厭な予感がしてならなかった。も

しかして今日のお仕事は私を脅迫している人達
が仕掛けたものなのかしら・・・？業界の中
に自分の弱みを握る者達が大勢いる事を薄々
感じていた莉奈は、現場に近づくにつれ胸が
張り裂けそうなほど心臓の鼓動が高鳴るのを感じ
ていた。山下は都内にあるオフィス街に莉奈を
連れて来ると、通りの一角で待ち構えていたスタ
ッフ達に挨拶をした。――今日は宜しくお願
いします――莉奈は精一杯の笑顔でスタッフ達に
挨拶すると、四十代くらいの小太りの男性カメ
ラマンが厭らしい笑みを浮かべながら――よろ
しく――と挨拶を返してきた。この小太りの男
と仕事ををするのは莉奈は初めてで、服の上
から体を舐め回すように見つめる男の視線に、
思わず凍り付きそうになった。――それでは、
早速これに着替えてもらえますか――

女性スタッフの一人がそう言って淡いピンク色の下着を差し出すと、莉奈はさらに体を凍り付かせ固まっていた。
なんと、それはシースルのブラとパンティで所々に刺繍が施されているものの、ほとんどスケスケの代物であっただ。
「えっ、これを着るんですか・・・？」
下着を受け取った莉奈が思わずそう尋ねると女性スタッフは意味深な笑みを浮かべながら「はい」と頷いて見せた。
フアッション誌の撮影でこんなスケスケ下着を着るなどありえず、莉奈はその瞬間に今日の撮影が脅迫者達によって仕組まれたものであることを確信したのだった。もしも、この人達の命令に逆らったら、とんでもない罰を受けることになるかも知れない。そう思った莉奈は、このスタッフ達の指示に素直に従う覚悟を決めるしかなかった。
「あ・・・どこで着替えれば良いですか？」
莉奈は怯えた様子で女性スタッフに尋ねた。

「その辺で適当にお願いします」
女性スタッフはあっけらかんとした口調でそ
う答えたのだった。
「えっ・・」
莉奈は思いがけぬ返答に動揺を隠せなかった。
辺りを見渡せばカッチリとしたスーツに身
を包んだサラリーマンやOLが通りを颯爽と
歩き、オフィス街の中には何処にも体を隠し
て着替えられるような場所は見当たらなかった。
た。
「莉奈ちゃん、サツサと着替えて貰えるかな
莉奈がいつまでも下着を手握ったままボツ
ーと立ち尽くしている、女性スタッフが少
し苛立った口調で呼び掛けた。
「す、すいません・・」
莉奈は自分のせいで周りにいるスタッフ全員
に迷惑を掛けている事を知ると、慌てて何処
か少しでも体を隠せる場所はないか探した。
しかし、やはり何処にも体を隠せるような
場所はなく、追い詰められた莉奈はついにス

タッフ達から少し離れた場所へ行き、そこで服を脱ぐことにしたのだった。ああん、恥ずかしい・・°。周りを高層ビルで囲まれたオフィス街の一角で服を脱ぎ始めた莉奈は、遠くを歩くサラリーマンやOLに見つからないか気が気でなかった。

ファッション誌のスタッフやマネージャーの山下は野外で服を脱ぐ人気モデルのストリッブショーを意味深な表情で眺め、その様子を隠し撮りしている者もいた。今をときめく人気モデルがオフィス街で服を脱いでいる光景は、見る者の欲情をそそり、加虐心を煽つた。緒方莉奈をとことん辱め、性奴隷へと堕としてやりたい・・°。それがこの場にいる全員の共通の思いだったのだ。

オフィス街の一角で下着姿になった莉奈はまずブラを外し、それを地面にそつと置いた。ついに屋外でパンイチ姿になった莉奈は左手で乳房を隠し、右手をパンティの縁に掛けた所で思わず固まってしまった。先日、母校の

校庭で素っ裸になったとはいえ、こんな高層ビルに囲まれたオフィス街でいざ素っ裸になると思うと、さすがに強い羞恥に襲われ、最後の一枚を脱ぐのは躊躇われた。ああん、どうしよう。・・。莉奈はパンイチ姿のまま体を小刻みに震わせ途方に暮れた。

「莉奈ちゃん、何してるの？早くしなさい！」

マネージャーの山下は莉奈の元へ近づくと、厳しい口調で叱責した。

「ああん、ごめんなさい。・・。」

山下の迫力に圧倒された莉奈はすぐに謝り、目を閉じて一気に右手でパンティを下ろし、それを足首から抜き取った。

「これは、今日の撮影が終わるまで私が預かっておくわね。」

マネージャーの山下はそう言って、莉奈の脱ぎたてのパンティを引いたくるように奪い取った。

「ああん。」

オフィス街でとうとう素っ裸になってしまった
た莉奈はどうしようもない不安に喘ぎ、慌て
てさっき渡された下着を身に着けていった。
「いやぁん」
淡いピンク色のシースルのブラとパンティ
を纏った莉奈は、その想像以上に恥ずかしい
姿に再び喘いだ。
ブラの奥からは乳首や乳輪が透けて見え、
パンティの奥では黒い茂みが透けてはつきり
と分かった。それはある意味、裸よりも恥ず
かしい姿で、こんな恰好でこれから撮影をし
なければいけないのかと思うと、莉奈は軽い
目眩さえ覚えた。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 国民のペットへと堕ちていくヒロイン 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 女神の憂鬱 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 女性教諭の前代未聞の不祥事 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>